



名鉄病院 news letter

平成27年 早春号



ごあいさつ 名鉄病院 副院長 野寄 英樹

平素は医療連携にご理解とご協力をいただきまして誠にありがとうございます。
現在は平成25年9月からの仮運用体制での診療が続き、患者様には大変ご不便をおかけして申し訳ありません。新1号館の建設工事は順調に進行しており、平成27年夏には予定どおり新1号館が竣工する見込みです。これに先立ちまして今年3月に電子カルテを導入いたします。こちらも患者様の診療に影響がない様に、旧システムからの円滑な移行に努めますので、ご理解いただきますようよろしくお願い申し上げます。この電子カルテシステムを運用にすることにより、将来的には診療情報についてなど地域の先生方との医療連携の改善も期待できるのではないかと考えています。

今年は新1号館の完成と電子カルテシステムの導入という大きなプロジェクトを行い、名鉄病院にとって今後さらに飛躍をするための変革の礎となる年になります。これからも地域医療に貢献できる病院として職員一同より一層の努力を続けますので、ご支援の程何卒よろしくお願い申し上げます。

INDEX

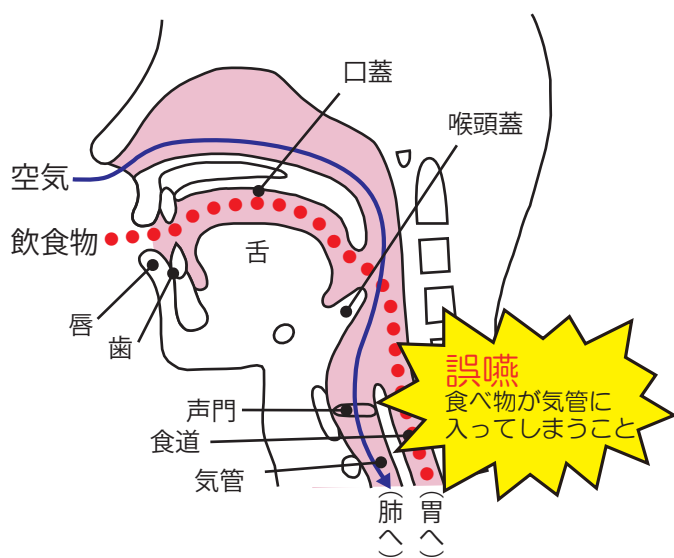
1 ごあいさつ

2 誤嚥・窒息防止
のための取り組み

3 「口腔ケアと食事介助方法」
研修会の開催
新・1号館建築だより

4 名鉄病院では
電子カルテシステムを導入します

誤嚥・窒息防止への取り組み



当院では、安全への取り組みの一つとして、患者さまの誤嚥（ごえん）・窒息の防止に取り組んでいます。看護スタッフは、入院される前の食事形態や、摂食状況、とろみ剤使用の有無を確認して、入院後の食事形態を検討しています。しかし体が健康で元気な時は、食事の摂取量も多くムセたりしないのに対し、病気で疲れてしまっている時は、力なくムセたり摂取量も減ってしまいます。そのため、入院時又は食事を開始する際に、患者さまの口腔内を綺麗にしてから、簡単な嚥下（えんげ）スクリーニング評価を行い、安全に食事が開始できるよう働きかけています。

嚥下運動とは、口から食べ物を入れ、歯で咬み、のどから食道に噛み砕いた食べ物を流し込む一連の運動のことです。この運動は、顔や口、のど、首などすべての骨と筋肉によって行われます。特に高齢者の方は、体の筋力が衰えるのと同時に嚥下機能（飲み込む運動機能）も落ちてきます。入院前はしっかり飲み込んでいたのに、入院後ムセるようになってたり、食べれなくなったりしてることがあります。これは、ベッドで臥床していることが多く、全身の筋力低下が起きていることが考えられます。必要な患者さまには、身体のリハビリと共に、口腔機能の維持や、重症肺炎の予防、安全に経口摂取を進めることなどを目的に、主治医や看護師、リハビリスタッフと相談しながら摂食機能訓練も行っています。

「食べる」ことは、目で見て、頭で食べ物と認識し、手で持ち、口に運ぶことから始まります。認知機能が低下した方の中には、食べ物を見ても認識できず摂食行為に至らない（リンゴを見ても、食べ物とわからないから食べない）こともあります。また、食べることは骨や筋肉の運動であり、呼吸が乱れていたり、体が疲労していると摂取量が減ったり、自分で摂取しなくなってくることがあります。

食事摂取量が減り低栄養になると嚥下障害になりやすく、また誤嚥性肺炎を起こしやすくなります。栄養サポートチーム（医師、管理栄養士、薬剤師、検査技師、病棟看護師）の専任として、チームで患者さんに介入し、より食べやすい物に工夫したり、食べやすい姿勢の調整を行ったりしています。また患者さまに、より安全に食事を食べてもらえるよう、ご本人さまやご家族の方に、食事摂取や介助の方法などの指導も行っています。

楽しく美味しく食べて頂くことは、まずお口の中を綺麗にして、味覚を感じる入り口作りから始まります。栄養を改善することで体力を作り、患者さまが誤嚥性肺炎や窒息を起こさないよう、一人ひとりの方が安全に楽しく食べる環境づくりのお手伝いをさせて頂いています。



「口腔ケアと 食事介助方法」 研修会の開催



昨年の12月4日(木)に、名鉄病院・認知症疾患医療センターの企画により、『口腔ケアと食事介助方法』をテーマにした研修会を実施しました。当院の摂食・嚥下障害看護認定看護師である高倉千ほみが講師となり、近隣で活動している医療/介護従事者の皆様30名が参加されました。

会場にはお菓子や飲み物も用意されましたが、実はそれも研修内容のひとつ。参加者に、「背中を丸めて顎を前に出した状態」で飲み物を一口飲んでもらい、高齢者の方々の『飲み込み』を体験して実感していただく演習でした。

さらに、参加者でペアを組んでお互いの口腔をケアしあう。こうして、参加者の皆様に実際に体験していただくことで、「ケアをされている高齢者の方々がどういう気持ちになるのか」の理解も深まります。講演後の感想でも、「口腔ケアをされているときの気持ちがあった」「こうした内容を現場に落とししていくことが大事」などの感想が寄せられました。

当センターでは、今後もこうした研修会を定期的に開催していく予定です。お気軽に「認知症疾患医療センター」にお問合せください。

現場名 名鉄病院
新・1号館
建設だより



現在(27年1月末)の工事状況は、コンクリートの建物が5階まで出来上がり、外観はあと6階を残すだけとなりました。

そして、1階からは内装工事も併行して行われており、夏頃の竣工に向け順調に進められております。



名鉄病院では
電子カルテ
システムを導入します

当院では本年3月9日(月曜日)から、
診療の記録や指示を電子的に扱う
電子カルテシステム
「MI・RA・I s」を導入します。



電子カルテシステムのメリット

①情報の共有化

いつでも院内のどこからでも患者様の診療情報をパソコンで確認でき、チーム医療を推進する当院にとって、医師・看護師・コメディカルスタッフの複数の目でリアルタイムに見ることで、良質な医療の提供が期待できます。

②情報のスピード化

実施内容がすぐにデータ化されパソコン画面に映し出され、また、紙カルテの準備や運搬の手間が省け、待ち時間の短縮が期待できます。

③医療安全の向上

入院患者様への注射や与薬を実施する時、患者様—お薬—病院スタッフの「3点認証」をバーコードで確認しますので、誤認防止などの医療安全向上につながります。



今回の導入で、院内情報の電子化が充実します。

今後は地域医療連携の充実に重点を置き、かかりつけの先生との情報共有がシステムのできる仕組み作りに邁進してまいります。

※おことわり

操作研修やリハーサルを行ってスムーズな導入を目指していますが、当初は、受診時間に遅れが生ずることが予想されます。ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願い申し上げます。



名鉄病院

〒451-8511 名古屋市西区栄生 2-26-11

URL <http://www.meitetsu-hospital.jp/>

診療科目

- 総合内科 ●循環器内科 ●消化器内科 ●神経内科 ●血液内科
- 内分泌・代謝内科 ●小児科 ●外科 ●整形外科 ●消化器外科
- リハビリテーション科 ●脳神経外科 ●婦人科 ●皮膚科 ●泌尿器科
- 耳鼻咽喉科 ●眼科 ●放射線科 ●腎臓内科 ●呼吸器内科
- 病理診断科 ●麻酔科

診療センター

- 予防接種センター ●健診センター ●ウロギネセンター
- 認知症患者医療センター ●関節鏡センター ●糖尿病センター

専門外来 ※予約制 (一部を除く)

- 禁煙外来 ●乳腺外来 ●インスリン導入外来
- スポーツ内科(他院からの紹介の方のみ) ●シルバークリニック
- 小児慢性疾患外来 ●乳児健診 ●女性泌尿器科外来 ●肝臓外来
- ストーマ外来 ●フットケア外来 ●ペースメーカー外来
- 糖尿病眼合併症外来 ●ASO外来 ●糖尿病透析予防外来
- リウマチ外来 ●関節鏡外来 ●スポーツ外来
- 小児整形外来<月1回/不定期> ●脊椎外来 ほか

病診連携に関するお問い合わせは

地域医療連携室 TEL. 052-586-5755 FAX. 052-586-5756

本紙内容に関するお問い合わせは

事務部事務1課 TEL. 052-551-6121 (代) FAX. 052-551-6711